

乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO.77

2020.10

カドサイラの適応拡大!!! 術後治療にも使用できるようになりました!



カドサイラは、がん細胞にあるHER2蛋白を標的としたハーセプチンという薬とエムタンシンという抗がん剤を合体させた薬です。カドサイラの一部であるハーセプチンがHER蛋白に結合することで、エムタンシンががん細胞の中に取り込まれ、がん細胞を直接攻撃します。今までは転移再発乳がんの治療薬として使用されていましたが、2020年8月より適応拡大となり、乳がんの患者さんの術後にも使用できるようになりました。



対象となる患者さん

対象となるのは、HER2陽性の乳がん、手術前の薬物治療(術前治療)でがん細胞が完全には消失しなかった患者さんです。術前治療の後、小さなしこり

が残っていたり、画像診断で見かけ上無くなっている場合、手術後の組織を顕微鏡で見るとわずかにがん細胞が残っている場合があります。その場合には、術前治療の効果はやや不十分と判断し、術前治療とは異なる薬剤を用いて術後治療を行い、がん細胞の根絶をめざします。術前治療で完全にながながんが消失しなかった乳がん患者さんの術後治療としてカドサイラの治療を行うことで、乳がんの再発や新たながんが出現するリスクが約50%低下したことが報告されています。術後治療としてのカドサイラの治療は3週間に1回の点滴で、14回まで投与します。一方、術前治療でがんが完全に消失した患者さんでは、術後も術前治療と同じ治療を継続します。カドサイラの治療を受ける場合には、定期的に血液検査(肝機能・血小板の数など)を行います。また心臓の機能についても定期的に検査を行います。

副作用について

副作用として、出血(鼻血、歯ぐきからの出血など)、アレルギー反応(さむけ、発熱など)、肺への影響(咳、呼吸苦、発熱)が出る場合もあります。

治療中に体に異常があらわれた時は、いつからどのような症状が出たか、どの程度であったかを、できるだけ早く医師、看護師、薬剤師に連絡してください。



乳腺外科
泉井 綾香